

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	失語・高次脳機能障害治療学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 月曜1限、金曜3限	教室名	第4校舎301
担 当 教 員	丸山 めぐみ、山本 陽平	実務経験と その関連資格	言語聴覚士として病院勤務、成人領域の言語聴覚療法を行っていた。 訪問リハビリテーション業務にも従事し成人、小児領域の言語聴覚療法を行っていた。			
《授業科目における学習内容》						
失語症、高次脳機能障害についての基礎知識を応用し、評価結果を分析する。 評価のまとめを根拠に、各障害特性に対応したリハビリテーションを実施できる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【丸山】①言語聴覚士のための臨床実習テキスト②高次脳機能障害学第3版(医学書院) 【山本】③失語症学第3版(医学書院)④なるほど！失語症の評価と治療(金原出版株式会社)						
《授業外における学習方法》						
症状や専門用語の定義を随時テキストを使用して確認する。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例の評価、診断の手順や時系列の流れを理解し説明できる。		① 配布資料 パソコン プロジェクター	①②で高次脳機能障害にまつわる専門用語を再確認する。
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の評価・診断の流れ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例報告書の作成方法を理解し説明できる。		① 配布資料 パソコン プロジェクター	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	症例報告書に記載する項目、順序、まとめ方			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害のリハビリテーションの方法を調べ、実施できる①		① 配布資料 各自のPC	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	グループで1症例を担当し、訓練方法を調べ訓練課題を作成			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害のリハビリテーションの方法を調べ、実施できる②		① 配布資料 各自のPC	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	グループで1症例を担当し、評価・訓練方法を調べる/症例報告書を作成			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例情報をまとめることができる①		① 配布資料 各自のPC	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	担当症例について、評価・訓練方法を調べる/症例報告書を作成			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	症例情報をまとめることができる②	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。
		各コマにおける授業予定	担当症例について、評価・訓練方法を調べる/症例報告書を作成		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グループで時間内に評価方法/訓練内容について発表することができる。	配布資料 パソコン プロジェクター	発表を聞いて生じた疑問点について調べる。
		各コマにおける授業予定	グループの担当症例の評価・訓練方法について発表		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	グループで時間内に発表することができる。	配布資料 パソコン プロジェクター	発表を聞いて生じた疑問点について調べる。
		各コマにおける授業予定	グループでまとめた症例の評価・訓練方法について発表 高次脳機能障害の言語聴覚療法のまとめ		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症の評価の流れを理解し説明できる1	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例の評価の流れ1		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症の評価の流れを理解し説明できる2	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例の評価の流れ2		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症例を評価できる1	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例の評価の実際1		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症例を評価できる2	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例の評価の実際2		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症例に対する訓練プログラムが立案できる1	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例に対する訓練プログラムを立案する1		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症例に対する訓練プログラムが立案できる2	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例に対する訓練プログラムを立案する2		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	失語症例に対する訓練プログラムが立案できる3	③、④	教科書、参考図書で失語症に関わる専門用語をあらかじめ調べておく。授業で取り上げた内容を復習する。
		各コマにおける授業予定	失語症例に対する訓練プログラムを立案する3		